

(令和3年4月試験研究業務月報)

試験研究課題：舞鶴湾におけるマナマコ漁業の複合的管理手法の開発

研究

## 宮津湾と舞鶴湾のナマコ資源状況を調査

宮津湾のナマコ漁業(桁びき網)では、当センターが漁業者と共同で実施する資源量調査の結果をもとに、その年々の資源量に見合った順応的な資源管理が行われています。令和3年4月2日に、令和2年度漁期後(令和3年2~3月)に獲り残された資源量を調査したところ、漁期開始時資源の約30%が漁獲され、次漁期のために70%もの十分な資源量が残されたことが確認されました。

一方で、府内で最もナマコの漁獲量が多い舞鶴湾では、桁びき網に加えて、漁獲圧の高い潜水漁法でも漁獲されています。当センターでは、舞鶴湾のナマコの資源状態を評価するため、令和2年度より資源量調査などの調査研究を開始しました。令和3年4月6日に、令和2年度漁期後(令和2年11月~令和3年3月)に獲り残された舞鶴湾内のナマコ資源量を漁業者と共同で調査したところ、40~50%の資源しか残っておらず、軽度の乱獲状態と判断されました。今後、これらのデータをもとに舞鶴湾の漁業形態に適した管理方策を検討、提案していきます。



漁業者とともに資源量を調査(舞鶴)



採集されたナマコ(舞鶴)